

# 9/27(土)

基調講演

27日 13:30～16:30  
2F 中ホール

## 住民自治とまちづくり

<基調講演> 13:30～14:30

高橋 敏彦 (北上市長)  
『あじさい都市のまち育て』

鈴木 浩 (福島大学名誉教授)  
『地域再生に向けて  
ー住民自治とまちづくり』

<パネルディスカッション> 14:30～16:30

パネリスト  
高橋 敏彦 (北上市長)  
鈴木 浩 (福島大学名誉教授)  
菊池 広人 (いわてNPO-NET サポート)  
高鍋 剛 (都市環境研究所)  
小林 英嗣 (日本都市計画家協会)

コーディネーター  
北原 啓司 (弘前大学教授)

北上市では現在、「あじさい型集約都市」として、地域活動を活性化し、それらを連携させることにより、土台としての地域での住民自治の仕組みを構築し、その延長上に各地域の拠点づくり、都市の拠点づくりを行う形での政策展開を行っている。これまで各地で論じられてきた、機能集約型のハード中心のコンパクトシティ論とはやや異なる。

このシンポジウムでは、高橋市長、鈴木先生の基調講演を受けて、このような、東北で取り組まれている住民自治を目指したまちづくりに注目し、これからのまちづくりの展開のあり方について模索する。東日本大震災においても身近な地域単位のまちづくりのプロセスにおいて、地域コミュニティの健全さと、住民の意向を計画に反映する仕組み、さらには行政がそのような地域毎に活動に対して後押しし、それを政策として決定していく、広い意味での官民連携のあり方が課題とされた。



このような背景を踏まえて、①地域活動のきっかけづくり、②活動の継続・横展開のあり方、③住民自治の目指す形、④活動と行政計画・制度との関係、⑤行政と住民の連携のあり方や必要なマンパワーなどを論点として今後のまちづくりのあり方を模索する。

分科会

27日 16:00～18:00  
2F 多目的室 1・2

## ものまち研「北上発ものづくりコミュニティ」

発言予定者  
地元産業人 後藤辰男 (ジエフ・トップ)  
今井 潤 (岩手大学)  
小原 健 (北上市職員)  
小泉 秀樹 (東京大学)  
土井 幸平 (都市計画家)  
越阪部 和彦 (東京都北区職員)  
伊藤 清武 (都市産業研究所) 他

進行  
千葉 葉子 (ウォーク・ドント・ラン)

全国総合開発計画「国土の均衡ある発展」政策のモデルとなって内陸工業開発に先駆的に取り組んできた「岩手中部」地域も、経済のグローバル化、都市のコンパクト化に向き合う、新たな地域戦略が問われている。

近年、本地域では岩手大学等と連携して地域産業の底力アップに取り組んできた。また、宅配物流の進化によって生産連携の自由度が高まり、大企業の下請けではなく、磨き上げた技術を活かして全国の顧客とつながっていくものづくりの萌芽も見られる。一方、まちづくりに目を向けると、地域独

自の伝統・風習に根ざした密なコミュニティが維持され、この地で新たな仕事や生活を組み立てたいとする若者世代も多いという。

北上から始まる新たなものづくりコミュニティとはどういったものなのか。工業開発の次の戦略として、「美しい田園風景」に生まれ、人々が生き生きと活動し定住する「産業コミュニティ形成」のあり方について意見交換する。

分科会

28日 10:00～12:00  
2F 会議室 1・2

## 震災復興TFラウンドセッション

パネリスト  
片山 和一良 (大船渡市越喜来地区)  
黒田 征太郎 (陸前高田未来商店街)

コメンテーター  
小泉 秀樹 (東京大学教授)  
大船渡市越喜来地区関係者  
JSURP震災TFメンバー  
内山 征、神谷 秀美 他

コーディネーター  
加藤 孝明 (東京大学生産技術研究所准教授)

東日本大震災以降、協会では震災TF(震災復興タスクフォース)を立ち上げ、被災地のまちづくり支援活動を行ってきた。この間、陸前高田市の未来商店街と大船渡市越喜来地区では地元関係者とともに復興に向けた活動を継続中である。こうした経緯をふまえ、全まちin北上では3年余のTF活

動を振り返り復興支援の課題を確認しつつ、復興の現場・被災地側の生の声を交えたディスカッションをラウンドテーブル形式で行い、これからの復興支援のあり方と JsurrTF 活動の展開について意見交換を行う。

# 9/28(日)

景観フォーラム 「景観を喰らう」

28日 9:30～12:45  
1F 小ホール/施設外

<パネルディスカッション> 「素材を知る」 9:30～11:00

パネリスト  
昆野 将俊 (芸術工房常務理事)  
小田島 光安 (あすの黒岩を築く会事務局長)  
梅木 しのぶ (広瀬川まちづくり倶楽部事務局長)

コーディネーター  
北原 啓司 (弘前大学教授)

古くから物流の結節点であった北上市は有数の工業集積地として発展してきた。しかし、都市化に伴い歴史的町並みはほとんど失われ、さらに豊かな自然景観や美しい農村景観も変化し続けてきた。そうした状況に対して、北上市は岩手県内でも早い段階で景観行政団体に移行し、景観計画策定のみならず、景観を手掛かりとしたまちづくりに取り組んできた。きたかみ景観資産として認定された資産は

100カ所以上になり、地域住民等が主体となって取り組む活動は広がりつつある。今回のフォーラムでは、北上市の取り組みを振り返りつつ、地域資源を生かした活動を行っている黒岩地区と、河川改修に伴う道路整備を契機として立ち上がった広瀬川まちづくり倶楽部を素材として、景観まちづくりの成果と今後の課題について示唆を得ることを目的とする。

<フィールドディスカッション(エクスカージョン)> 11:00～12:45

案内  
梅木 しのぶ (広瀬川まちづくり倶楽部事務局長)  
小田島 光安 (あすの黒岩を築く会事務局長)

コース  
広瀬川 - 黒岩まんなか広場 - 二子(昼食)

広瀬川は改修に合わせて住民参加により計画・設計が行われせせらぎ緑道として生まれ変わった。現在は広瀬川まちづくり倶楽部を中心に維持・管理だけでなく景観まちづくり活動が行われている。

黒岩地区は自治振興協議会による地域づくり活動が盛んな地区であり、NPOは自治振興協議会が取得したまんなか広場の維持管理を主事業として、産直や食堂の運営もを行っている。

## 家協会事業 楠本洋二賞 記念講演会

28日 10:00～12:00  
2F 多目的室 1・2

パネリスト  
最優秀賞 長谷川 隆三 ((株)フロントヤード)  
優秀賞 福田 忠昭 (LOCAL&DESIGN(株))  
奨励賞 中島 敏博 (千葉大学環境健康フィールド科学センター)

コーディネーター  
原 拓也 (第5回楠本洋二賞最優秀賞受賞者)

今回で第6回を数える日本都市計画家協会 楠本洋二賞は、「理論と実践」をテーマとして、全国の都市計画・まちづくりにおいて活動している若い研究者・プランナー・まちづくりの実践者などを対象として、その業績を顕彰するものである。今

回は左記の通り、受賞者が決定している。各賞受賞者による記念講演に続き、第5回最優秀賞の原拓也氏を迎え、受賞者とともに、現在そしてこれからの都市計画・まちづくりにおける「理論と実践」について討議する。

## フォーラム 復興「都市計画」を考える

28日 13:00～14:45  
1F 小ホール

### ～空間形成の計画理論と規制・事業制度を考える～

出演者  
角田 陽介 (大船渡市副市長)  
今野 亨 (ドーナツ東北復興推進室副技師長)  
小林 典明 (東松島市復興都市計画課長)

コメンテーター  
江田 隆三 (地域計画連合代表取締役)

コーディネーター  
姥浦 道生 (東北大学准教授)

東日本大震災からの復興は、壊滅的な被害を受けた街を原地または高台等において一から作り直す作業である。その際には、被災地で顕著な高齢化・人口減少に伴う都市のコンパクト化／“縮小・撤退”という事象に対応した空間像を描き、実現していかなければならない。この実現作業は、ここ数十年、「都市計画からまちづくりへ」という言葉に代表されるように、いわば時代遅れとも思われていた各種ハード整備事業・都市計画

を進めていくものである。しかし復興の過程では、そもそもそのような空間像が曖昧であることに加え、その実現のためのツールが現代の状況を踏まえた空間形成に役立つものではないことが露呈している。本シンポジウムでは、そのような都市計画事業の被災地での運用実態とその課題について明らかにすると共に、今後の平時の都市計画につながる計画論及び事業・規制制度論に関する示唆を得ることを目的とする。

## フォーラム 復興「まちづくり」を考える

28日 15:00～16:45  
1F 小ホール

### ～専門家支援の必要性とは～

出演者  
菊池 広人 (いわてNPO-NETサポート事務局長)  
近藤 均 (大船渡市末崎地区公民館長)  
榎原 進 (都市デザインワークス代表理事)  
紅邑 晶子 (みやぎ連携復興センター代表)  
手島 浩之 (日本建築家協会宮城地域会)

コーディネーター  
小地 沢将之 (国立高専機構仙台高等専門学校准教授)

東日本大震災からの復興に際しては、震災以前からのつながりを基盤としながら住民活動を強化したり、NPOなどが関与しながら地域の中に新たな取組みを立ち上げたりするなど、さまざまなタイプのアクションがみられる。これらのテーマは、仮設住宅における支援員の育成や地縁組織の立上げ、配食や見守りなどの福祉的観点からの生活支援、仕事づくりや交通手段の支援など多岐にわたる。また、地域行事の再興、農業や漁業の

再建、ツーリズムの開発など、失われつつある地域資源に光を当てた活動も多い。しかし、これらの多くは復興都市計画事業には該当しないため、現行の支援制度が行き届かなかったり、あるいは都市計画の専門家が十分に関与できていなかったりするケースも多い。本シンポジウムでは、都市計画分野にとどまらない復興まちづくりの地平を共有し、これらの分野で活躍する人材の専門性についても考えることを目指す。